

(5) 実践の考察**考察の視点**

『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の改善及び必要な方策等について（答申）』（平成 28 年 12 月）では、観点別評価については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点に整理することとされています。「学びに向かう力、人間性等」に示された資質・能力については、評価になじむものではないことから、評価の観点としては学校教育法に示された「主体的に学習に取り組む態度」として設定されています。文部科学省からは、まだ、評価について具体的に示されていませんが、本研究委員会では、現行学習指導要領の評価の考え方と新学習指導要領の評価の考え方を以下のように捉えました。

現行学習指導要領	新学習指導要領
社会的事象への関心・意欲・態度	主体的に学習に取り組む態度
社会的な思考・判断・表現	思考・判断・表現
資料活用の技能	知識・技能
社会的事象についての知識・理解	

本研究委員会では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業の質的改善を図りました。「意識調査」から生徒の実態を把握して「チェックリスト」で教師自身の指導の実態を振り返り、「教師の手立て表」を照らし合わせて、6 月から 10 月にかけて授業実践に取り組んできました。

そこで、次の視点について、「意識調査」と授業実践から考察します。

教師の手立てが、生徒の資質・能力の育成につながっていたか。

「主体的に学習に取り組む態度」については、6 月と 11 月にそれぞれ採った「意識調査」の質問項目の中から抽出し、調査しました。「思考・判断・表現」「知識・技能」については、教師の手立てがそれぞれの資質・能力の育成につながったかどうかを、6 月～10 月の A 校の抽出児 A と B 校の抽出児 B のワークシートの記述の変容を基に分析・考察していきました。

ア A 校 2 学年の実践の考察**(ア) 「主体的に学習に取り組む態度」**

次頁図 1 は、6 月と 11 月にそれぞれ採った「意識調査」の「主体的に学習に取り組む態度」に関する項目の比較したものです。質問 1 「社会の授業では、単元全体を通した学習課題を意識して学習していると思う」、質問 4 「社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている」について、6 月の段階と比べ 11 月は、「当てはまる」と回答した生徒が増加しており、「当てはまらない」と回答した生徒はいませんでした。このことから、6 月から 10 月にかけて、授業の質的改善の手順に沿って実践を重ねた結果、取り入れた手立てが学びに向かう力、人間性等の育成につながったと推察されます。ただし、質問 2 「社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習していると思う」、質問 3 「社会の授業で、自分が調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている（討論している）と思う」については、6 月の段階と

比べ 11 月は「当てはまらない」と回答した生徒が増加しています。この結果の要因としては、単元が進むにつれて学習内容の難易度が上がったことで、単元を貫く学習課題を正確に捉えることができなかったのではないかと考えられます。より問題意識をもたせるための単元を貫く学習課題の設定や課題追究の過程で課題に対する意識付けをするための手立ての工夫を考える必要があると言えます。

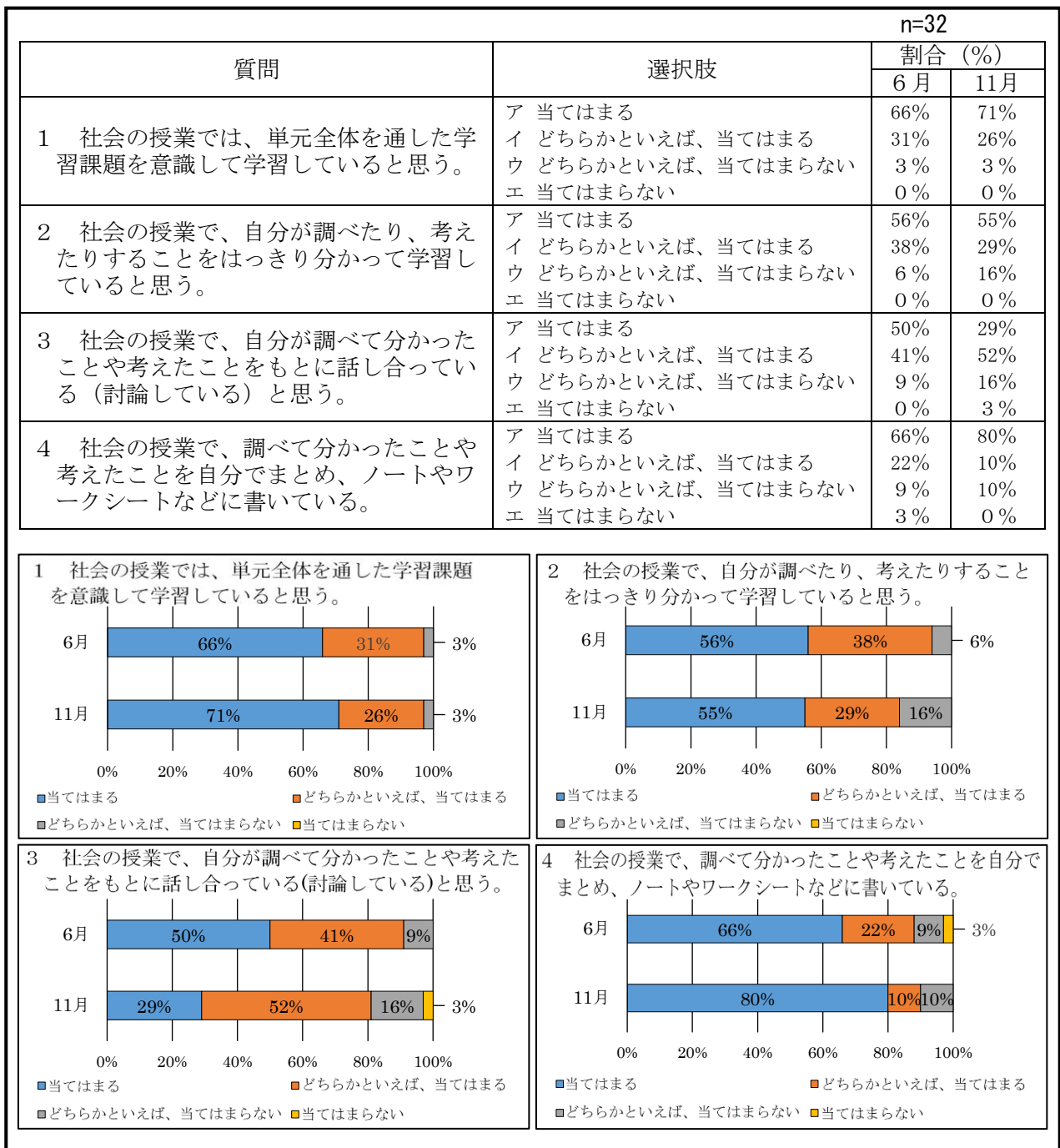


図 1 意識調査の結果

(4) 「思考・判断・表現」

抽出生徒Aのワークシートの記述の変容を基に考察しました。抽出生徒Aは、自分なりの考えをもつことはできますが、根拠をもって自分の考えを表現することに苦手意識をもっている生徒です。資料1は6月以前の記述で、このときは、多面的・多角的な視野をもつことができていませんでした。

☆過密地域と過疎地域の課題解決のための方策について自分の考えを説明しなさい。

.....過疎の地域に建物を作る.....

.....

.....

資料1 抽出生徒Aのワークシートの記述（5月）

7月の「産業の発達と幕府政治の動き」の授業実践

では、単元のはじめに、江戸幕府の財政状況の変化を示す資料から、幕藩体制が危機的状況に陥っていったことを示し、問い返しをしながら「江戸時代の諸改革は成功したのだろうか」という単元を貫く学習課題を設定して授業を進めました。単元の最後に、江戸時代の改革について、根拠となる複数の資料を基にワークシートに合わせた書き方やキーワードに沿って多面的・多角的に考えるように促したことにより、自分の考え（資料2の枠囲み部）を、その根拠（資料2の実線部）を示して記述することができました。

④ 沼の政治は④ 沼意次が行ったものである。④ 沼意次は老中となり10代将軍の信頼を得て、幕政を担当した人物である。

改革の内容は商工業が株仲間を奨励したり、長崎での貿易を活性化させるために、銅の専売制の実施や俵物の輸出拡大のため蝦夷地の調査を行ったような内容である。また、印旛沼の干拓事業も行った。この改革の結果は1782年天明のききんで百姓一揆や打ちこわしが起こり、意次は老中を辞めさせられ失敗という結果になった。

良いところは、商工業が活発になったところである。なぜなら、商工業が活発になり、自由な風潮の中で学問や芸術が発展し百姓身分などにも良かったからである。(教ク行自) もう一つは、長崎貿易の拡大である。 なぜなら、金・銀・銅を輸入することにより、日本から輸出される銅を減らすことができ、国は豊かになったから。(資1A)

また、良かったのは地位や特権を求めていろいろが横行したことである。なぜなら、いろいろがさかんになり政治が乱れたからである。

資料2 抽出生徒Aのワークシートの記述（7月）

この単元終了後に、7月の実践の成果と課題を振り返って、生徒の実態を踏まえながら「チェックリスト」で教師自身の授業を振り返り、9、10月の実践に生かしていきました。

9月の「中国・四国地方」の授業実践では、単元のはじめに、単元に対する見通しをもつことができるように、中国・四国地方の他地域との結び付きに関する写真を示し、「他地域との結び付きにより地域はどう変化するだろう」という単元を貫く学習課題を設定しました。7月の単元から継続して記述させていたことで、ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示さなくても、資料3のように様々な人々の立場から良い点（枠囲み部）と悪い点（実線部）を踏まえながら考えることができおり、自分の考えを記述する力が身に付いてきていると考えます。

☆本州四国連絡橋の開通によって島に暮らす人々の生活はどう変化したか、良い点、悪い点両方踏まえて説明しなさい。

本州四国連絡橋の開通により、フェリー時間を気にせず移動できるようになり、買い物や通勤・通学、通院がしやすくなった。そして、移動時間が大幅に短縮できるようになった。また、フェリーの利用者が減り、フェリー便数も減少している。高齢者の生活が不便になった問題点もある。

資料3 抽出生徒Aのワークシートの記述（9月）

10月の「近畿地方」の授業実践では、単元の見通しをもつことができるように、昨今の環境問題における新聞記事から環境保全の取組を示し、「これから環境問題をどう解決したらよいだろうか」という単元を貫く学習課題を設定しました。環境問題や環境保全に対して多面的・多角的に考察できるように考えるポイントを掲示してグループで話し合わせました。生徒自身が暮らしている地域の歴史的景観を守っていくための手立てを考えさせたことにより、グループでの考察と意見交換を基に自分なりの考えを資料4のように記述することができました。新聞記事や身近な例を挙げて切実感をもたせたことで、多面的・多角的に考察する力が身に付いてきていると推察できます。

私が最も歴史的景観を守るために有効だと思う取り組みは

企業が伝統的工芸品を作る施設に改装して利用する。

この取り組みをすることにより、

そこに暮らす人々が歴史と伝統を後世に伝えていき、古い町並みの魅力を残したい

資料4 抽出生徒Aのワークシートの記述（10月）

6月から、本研究委員会が示した授業の質的改善の手順に沿って実践を重ねた結果、抽出生徒Aのような記述をする生徒が徐々に見られるようになり、10月には多面的・多角的に考察して自分の考えを記述することができる生徒が増えました。

以上のことから、6月からの教師の手立てが、生徒の実態に応じて「主体的・対話的で深い学び」の視点から改善が図られており、それらの手立てが思考力、判断力、表現力等の育成につながったと考えます。

(ウ)「知識・技能」

抽出生徒Aのワークシートの記述の変容を基に考察しました。

複数の資料を盛り込んだワークシートを活用した調べ学習を継続して取り入れていったことで、9月の「九州地方」の授業実践では、教科書や資料集から資料5ように読み取り、メリットとデメリットに分けてまとめることでできていました。

9月の「中国・四国地方」の授業実践では、橋の開通による島での生活の変化について、(1)～(3)に分けて教科書や資料集から読み取らせました。抽出生徒Aは読み取ったことを整理して資料6の枠囲み部のような工夫を加え、復習しやすいようにまとめることができていました。

○火山とともに生きる鹿児島の人々	
(1)鹿児島湾につきだす(桜島)はひんぱんに噴火を起こす火山である。	
(2)火山があることによりどんな影響があるか、まとめてみよう。	
メリット	火山の周辺にある温泉が観光業に生かされている。 祭りに生かされている。 早くからエアコン設置
デメリット	屋外での洗濯 入 噴火の心配 火山灰の掃除 火山灰が部屋に入ってくる 農作物に影響

資料5 抽出生徒Aのワークシートの記述(9月)

○橋の開通による島での生活の変化

(1) 教p186②からわかることを書きなさい。

自動車での中国・四国間移動(増)

(2) 本州四国連絡橋の開通により生活が便利になった点をあげてみよう

・買い物や通勤・通学、通院などにフェリー時間を気にせずに移動できるようになった。
しやすくなった。

・移動時間を大幅に短縮

(3) 本州四国連絡橋の開通により問題になっている点をあげてみよう

フェリーの利用者(減) → フェリーの便数(減) → 高齢者

資料6 抽出生徒Aのワークシートの記述(9月)

10 月の「近畿地方」の授業実践では、自然環境について、地図や雨温図、写真など複数の資料から読み取らせました。抽出生徒 A は資料 7 のように既習の知識を活用しながら、自然と気候の両面から近畿地方の自然環境をまとめることができていました。

6 月から、本研究委員会が示した授業の質的改善の手順に沿って実践を重ねた結果、抽出生徒 A のように既習の知識を活用しながら複数の資料を関連付けてまとめることができる生徒が徐々に見られるようになり、10 月には、教科書や資料集を活用して調べ、ワークシートにまとめることができる生徒が増えました。

以上のことから、6 月からの教師の手立てが、生徒の実態に応じて「主体的・対話的で深い学び」の視点から改善が図られており、それらの手立てが知識及び技能の育成につながったと考えます。

(2) 近畿地方の特色をまとめよう。

	特色(気候 地形 歴史 など)
北部	中国山地 → 丹波高地 にかけてなだらかな山地 が 続いている。 冬には北西からの季節風 雪が多い (リアス海岸 が 広がっている)
中央部	盆地を中心に(夏)は暑さが 厳しい) 一年の気温の差(大) (冬) 冷えこみ 南北の山地にはさまれて降水量(少) ⇒ たため池
南部	けわしい紀伊山地がある。南北の山地に囲まれ 盆地 黒潮 → 温暖(冬) ⇒ オカシや梅などの果樹園、リゾートが たくさん (夏) 南東からの季節風 降水量(多) ⇒ 樹木を育てる林業が たくさん

資料 7 抽出生徒 A のワークシートの記述 (10 月)

イ B校 3 学年の実践の考察

(ア) 「主体的に学習に取り組む態度」

図 2 は、6 月と 11 月にそれぞれ採った「意識調査」の「主体的に学習に取り組む態度」に関する項目の比較したものです。質問 1 「社会の授業では、単元全体を通した学習課題を意識して学習していると思う」、質問 2 「社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習していると思う」について、6 月の段階と比べ 11 月は、「当てはまる」と回答した生徒が増加しています。以上のことから、6 月から 10 月にかけて、授業の質的改善の手順に沿って実践を重ねた結果、取り入れた手立てが学びに向かう力、人間性等の育成につながったと推察されます。ただ、質問 1 「社会の授業では、単元全体を通した学習課題を意識して学習していると思う」については、11 月は「当てはまらない」と回答した生徒がいます。単元を貫く学習課題については、資料や写真を提示して問い返しをしながら生徒と共に設定していましたが、切実感をもたせるには不十分な部分がありました。単元を貫く学習課題に切実感をもって取り組めるように課題解決への見通しのもとを更に工夫する必要があります。

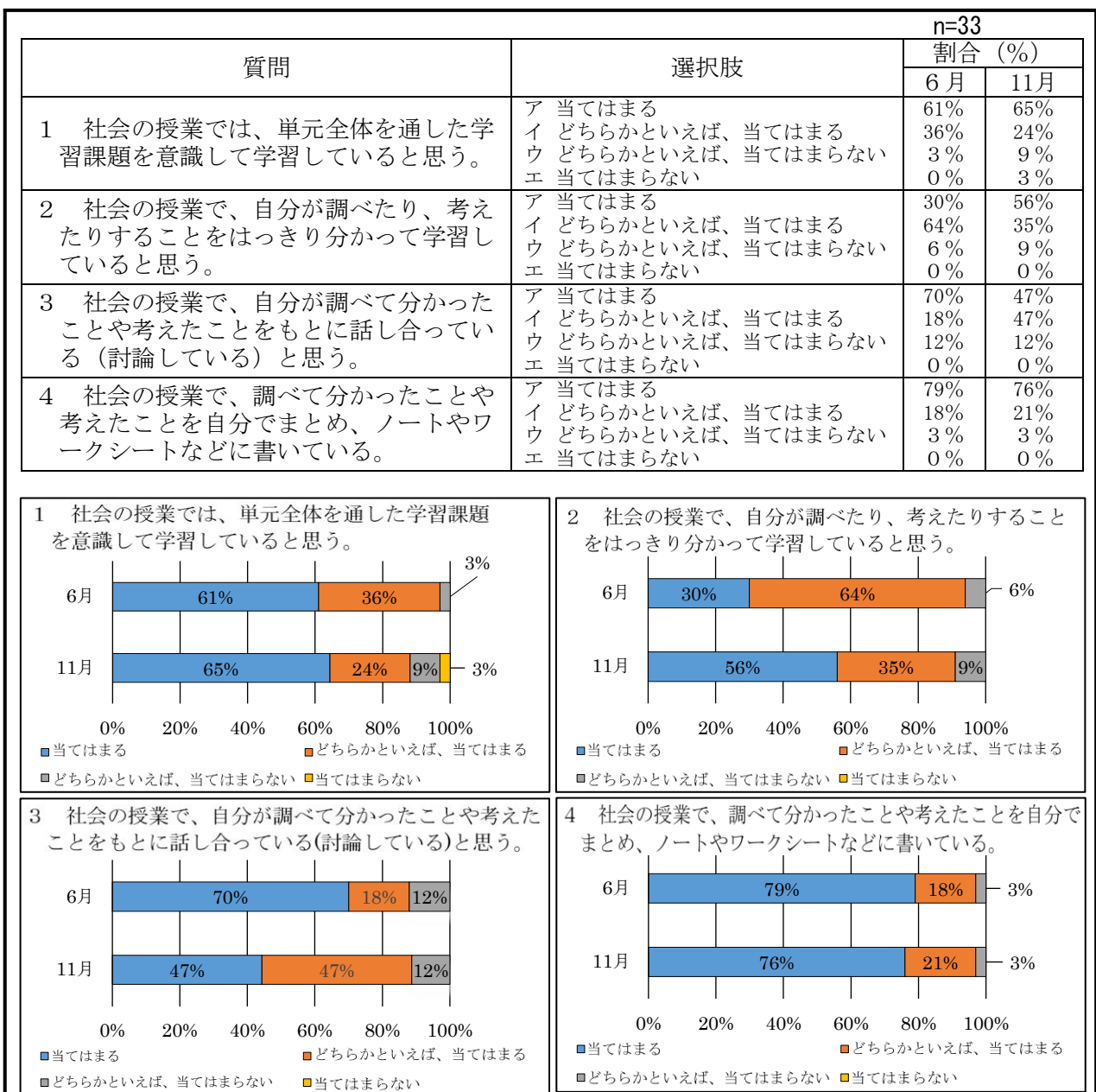


図 2 意識調査の結果

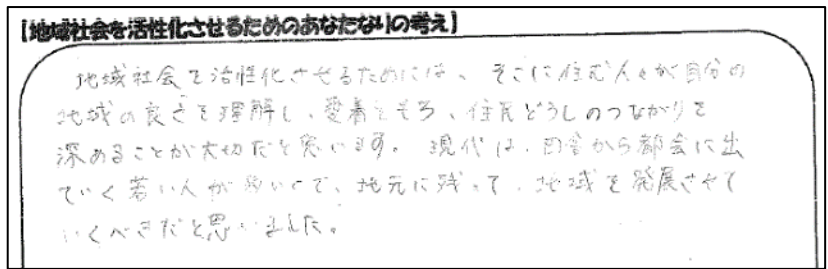
(4) 「思考・判断・表現」

抽出生徒 B のワークシートの記述の変容を基に考察していきました。抽出生徒 B は、社会科は覚えることが多いと考えているため苦手意識をもっています。6 月以前は、資料 8 のような記述をしており、用語・語句を使っていますが、結論に至った自分の考えが十分に記述できていません。



資料 8 抽出生徒 B のワークシートの記述（5 月）

7 月の「現代社会の見方・考え方について考えよう」の授業実践では、単元のはじめに、生徒たちに学習内容を身近なものに感じさせるために、資料や写真を提示して家族の在り方に対する関心を高めて問い返しをしながら、「現代社会の見方や考え方を知ろう」という単元を貫く学習課題を設定しました。その後、単元を貫く学習課題に対する予想や仮説を立てさせ、見



資料 9 抽出生徒 B のワークシートの記述（7 月）

通しをもたせたのでゴールをイメージさせることができました。学習内容を問い返しながらまとめる時間を設定したことにより、資料 9 のように自分の考えを記述することができました。単元の最後に、自分たちの生活とつなげて考えることができるように、問い返しをしながら、課題についてグループ内で意見交換させたことにより、効率と公正の面から自分なりの解決方法を選択し、その理由まで記述することができていました（資料 10 の実線部）。自分の生活とつながるような身近な例を挙げて切実感をもたせたことで、様々な側面、角度から資料 10 の実線部のように考察する力が身に付いてきていると推察できます。

対立からよりよい合意に向かうためのモデル図

効 率	・時間、お金、費やす努力に無駄はないか？
↓	・解決策に効果はありそうか？
公 正	・手続きは公正か？
	・機会は公正か？
	・結果は公正か？

どのような解決方法をとることができるか考えてみよう。

第 1 候補（イ）
理 由

第三者が均等に切り分けると、2人とも文句を言わないと思うから。

第 2 候補（エ）
理 由

一方が分けてもう一方が先にえらぶと、均等にわけられず置手紙に「お兄ちゃんとお父さん」と書いておいて、2人で分けた方が良いと思うから。

資料 10 抽出生徒 B のワークシートの記述（7 月）

この単元終了後に、7 月の実践の成果と課題を振り返って、生徒の実態を踏まえながら「チェックリスト」で教師自身の授業を振り返り、9、10 月の実践に生かしていきました。

9月の「基本的人権について考えよう」の授業実践では、単元のはじめにテレビのニュースや新聞記事などで話題になった芸能人の結婚や結婚に関する資料を活用して人権への関心を高め、問い返しをしながら、「私たち的人権は、どのように保障されているのだろうか」という単元を貫く学習課題を設定しました。また、時事問題を取り上げて、グループで意見交換をさせて多面的・多角的に考察させたことで、単元の最後には、資料 11 のように、自分なりの考えを記述できており、現代の社会問題につなげることができていると考えます。

許されない
クーラーの取りはすしはやりすぎだと思
います。さらに、もし、Aさんが入院
だけでなく、亡くなった場合、相
当なお金を市役所が払わなければ
ならないと思います。

資料 11 抽出生徒Bのワークシート
の記述（9月）

9、10月の「裁判員として刑事事件を例に司法制度について考えよう」の授業実践では、単元のはじめに近年の裁判員制度に関する記事と映像を基に、問い返しをしながら単元を貫く学習課題を設定しました。裁判員制度を他人事ではなく自分事として捉えることができるように、模擬裁判のロールプレイを取り入れました。さらに、主体的に学習に取り組むことができるように、単元計画と評価規準を示し、学習の見通しをもたせました。「被告人は有罪か無罪か」についてグループごとに評議して全体に意見発表させた後、自分の考えをまとめる時間を設定しました。その後、単元を貫く学習活動について振り返らせ、根拠となる資料を基にして自分なりの最終結論を出すように促

◎みんなの考え	
【有 罪】	【無 罪】
<p>・バイク点検の時間が短い</p> <p>・キャンプに行ったことのないのにキャンプが好きで、キャンプ仲間がいるのがいい</p>	
◎自分の考え	
【有 罪】	【無 罪】
	<p>私は無罪だと思います。六角さんはバイクの音を聞いただけで、犯人の姿も見 ていないし、犯人が被告人の住んでいるアパートにいるとは限らないからです。ま た、犯人からナイフを突きつけられているにもかかわらず、犯人の顔や、持っ た物のデザインを店員が正確に覚えていたことも不自然です。被告人 がもっていた物は、たいてい手に入る物ということもあるので、被告人が犯 人だという証はほかにないため、有罪にすることはできないと思います。このことから、 私は、被告人は無罪であると考えます。</p>

資料 12 抽出生徒Bのワークシートの記述（10月）

したことで、グループでの考え（資料 12 の実線部）と全体での意見発表を踏まえて、自分なりの考えとその根拠（資料 12 の枠囲み部）を記述することができました。時事問題を取り上げて問題意識を高め、ロールプレイを取り入れたことで、多面的・多角的に考察する力が身に付いてきていると推察できます。

6月から、本研究委員会が示した授業の質的改善の手順に沿って実践を重ねた結果、抽出生徒Bのような記述をする生徒が徐々に見られるようになり、10月には公民的分野において、教科書の内容から現代の社会問題へと考えを広げながら、自分の考えを記述することができる生徒が増えました。

以上のことから、6月からの教師の手立てが、生徒の実態に応じて「主体的・対話的で深い学び」の視点から改善が図られており、それらの手立てが思考力、判断力、表現力等の育成につながったと考えます。

(ウ)「知識・技能」

抽出生徒Bのワークシートの記述の変容を基に考察しました。

6月の「私たちの生きる現代社会について考えよう」の授業実践では、個人で調べる時間を取り入れて重要語句を示したことで、資料 13 のように初期と現代の携帯電話の違いを読み取り、比較しながらまとめることができていました。

資料からの読み取りを訓練しよう

問4 初期の携帯電話と現代の携帯電話の資料をみて、どのように変化してきたか。「技術革新」の語句を使って答えよう。

初期の携帯電話は重くて大きかったが、技術革新により、現代の携帯電話は軽くて小さく変化した。

資料 13 抽出生徒Bのワークシートの記述（6月）

7月の「民主主義と日本国憲法について考えよう」の授業実践では、憲法の条文（資料 14 の枠囲み部）を教科書で調べさせました。その後、憲法第9条の内容について教科書や資料集を活用して自分の言葉でまとめさせたことにより、資料 14 の実線部のような記述をすることができました。このような記述から、憲法第9条の条文の意味を理解することができたと推察できます。

日本国憲法第9条の内容

- ① 日本国民は、正義と秩序を基本とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる（戦争）と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを（放棄）する。
- ② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の（戦力）は、これを保持しない。国の（交戦権）は、これを認めない。

問1 9条に書いてあることを自分のことばで分かりやすくまとめなさい。

日本国民は、国際平和を願い求め、戦争をしない。

資料 14 抽出生徒Bのワークシートの記述（7月）

9月の「基本的人権について考えよう」の授業実践では、前単元から継続して憲法の条文（資料 15 の枠囲み部）を教科書で調べさせました。その後、クイズ形式の問いにすることで生徒の関心を高め、既習の知識を活用して資料の読み取りをさせたことで、資料 15 の実線部のように記述でき、憲法第 14 条の条文の意味を理解することにつながったと推察できます。

6月から、本研究委員会が示した授業の質的改善の手順に沿って実践を重ねた結果、抽出生徒Bのように既習の知識を活用しながら複数の資料を関連付けてまとめることができる生徒が徐々に見られるようになり、10月には、グループで協力して教え合いながら知識を習得し、資料を読み取ってワークシートにまとめることができる生徒が増えました。

以上のことから、6月からの教師の手立てが、生徒の実態に応じて「主体的・対話的で深い学び」の視点から改善が図られており、それらの手立てが知識及び技能の育成につながったと考えます。

憲法第 14 条

①すべて国民は、(法)の下に(平等)であって、(人種)、(信条)、(性別)、社会的(身分)又は門地により、政治的、経済的又は(社会)的關係において、差別されない。

クイズ 男女平等ということから、ここ 10 年間、学校で変わったできごとは？

席 男女一列 校・家 男女共に
 ↓
混合 学ぶ

クイズ 2 1992 年に大阪府が作成した啓発冊子の表紙が話題になった。この表紙のどこが問題か探そう。

男だけの仕事をしている 女だけの会話
 ↓ ↓
男女とも仕事をしている 男女での会話

資料 15 抽出生徒Bのワークシートの記述（9月）